

会 議 録

1 会議名

令和6年度第3回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議事項の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年8月5日（月）午後6時30分から午後8時15分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、横田正美（副会長）、笠原裕幸、京谷奈緒美、
佐藤和幸、佐藤幸太郎、白滝 了、田村 隆、中原桂一、番場淳子
（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶

- ・会議録の確認：京谷委員に依頼

【報告事項】地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・別紙1「地域自治推進プロジェクトの概要」

別紙2（案）「地域自治の理想的な姿及び取組の方向性（全体図）」に基づき説明

この資料についてのご意見等は、これから配布するアンケートの中でご回答いただきたい。

【坪田会長】

今ほどの説明について、何か質問等はあるか。

【田村委員】

先ほどの説明の中で「地域自治の活動を活性化する予算」として、「地域活動支援事業」から「地域独自の予算事業」に仕組みを変えたと聞いた。「地域活動支援事業」のときは市から決められた額の中で、地域協議会が地域の各団体からの提案を審議して採択するものを決めてきた。「地域独自の予算事業」は地域協議会の関りもなくなったが、どんな課題があって仕組みを変えたのか。市の予算が厳しいことはよく言われるが、予算削減のために仕組みを変えたのか。

【佐藤所長】

「地域活動支援事業」は地域の活動を支援する目的で設けたものだが、単なる物品購入に充てられた事例もあり、活動（ソフト事業）を支援できているのかということが課題の一つであった。「地域独自の予算事業」では、単なる物品購入の支援はしていない。活動についての支援策、補助制度ということで変更した。

【田村委員】

例えば、法被を買ってお祭りをやって、その地域が非常に盛り上がって、有意義に物品を使えたとすれば、それも効果ではないかという気がする。物品を購入することによって、地域の活動が充実することも考えられる。私には「地域独自の予算事業」に変えたことに疑問が残る。

【佐藤所長】

物品の購入については白黒つけがたいところであり、過去の「地域活動支援事業」は一度終了したので、新たな制度では物品購入のみについては、対象外として、切り離し

たというところでご理解いただきたい。

【坪田会長】

地域協議会の第1期から3期までは、「地域活動支援事業」の仕組みで地域協議会も審査に加わっていたが、第4期の後半から今期5期含めて、「地域独自の予算事業」として制度が変わっている点は理解をお願いしたい。

【佐藤所長】

さらにもう1点、「地域活動支援事業」に関しては、地域協議会のほとんどの時間を「地域活動支援事業」の審査に費やして、地域の活性化について協議する時間が確保できなかったという課題がある。

そこで、「地域独自の予算事業」では市が審査を行うこととし、地域協議会の皆さんには、設立当初の目的のとおり、地域の活性化についていろいろと協議していただく、深掘りしていただくということをお願いしている。

【坪田会長】

佐藤所長が先ほど言われたとおり、「地域活動支援事業」と「地域独自の予算事業」はメリットもありデメリットもあるが、やっている中身としては、全体を網羅すれば、相対的には同じことになるのかもしれない。

ほかに質問はあるか。

【佐藤幸太郎委員】

私も新規委員なので、前期までどういう議論があってやってこられたかはよくわからないが、突如変更になった印象である。令和6年4月25日、26日の新潟日報に、「岐路に立つ地方自治、上越市地域協議会」と上下連載で記事が出た。これを読むと、市長の意向が強かったのではないかと私は感じた。

【坪田会長】

ほかに質問を求めるがなし。

続いて、【自主的審議】自主的審議事項の進め方について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

6月28日の第2回の地域協議会では、自主的審議の進め方として、制度的なことや、前期の自主的審議事項「伝統行事、史跡、文化の継承について」というテーマと、「来訪者を受け入れるための地域づくりについて」というテーマの二つの事項について、これまでの審議状況を皆さんと共有したところである。前期からの二つの審議事項について、

少し意見交換をしたが、皆さん、第5期の地域協議会委員となって、それぞれ地域について思うところがあると思う。前回は第4期委員からの引き続きのテーマについて、皆さんと情報共有したが、今回は、地域協議会で話してみたいことを気軽にぎっくばらんにお話いただき、お互いの関心事等を知る機会にさせていただければと思う。その中から話を深めたいものや、今残っている審議事項についてつなげていけるものがないかといったことを探っていけたらと考えている。

【坪田会長】

今ほどの説明のとおり、地域協議会で話してみたいことについて、簡単でも結構なので皆さん一人一人からご意見を伺いたい。皆さん話しやすいように、私から始める。

私はここに40年以上いるわけだが、風光明媚ですばらしいところだというのがまず一点である。夕日もしかり、山は山で素晴らしい。四季折々のいいところがあり、海は海で冬の海、夏の海、秋の海とそれぞれ違った風景がある。この地を、人口減少の中で、何とか活性化に結びつけたい、それが皆さん全員一致の考えなのではないか。

学校が少人数になり、統廃合という話も昨今出ているが、学校を存続しながら、谷浜、桑取の地域が存続するように今頑張っているところである。

歴史もたくさんあって素晴らしいところなので、谷浜・桑取区域以外の方にも実際に見ていただいて、良さを知り、移住、交流人口でも結構なので来ていただく取組に協力いただければありがたい。一つでも二つでもより良いものを見つけて、谷浜・桑取の地域の活性化に向けて仲間を増やしながら力強く、努めていきたいと思っている。

【横田副会長】

「地域の課題」というと困っていることを挙げるイメージだが、逆に希望的によりよくすることを課題として考えてみたい。人が外から入って来て移住者が増える、高校・大学で外へ出た方がいずれまた戻って来る、そういうことも含めて、何か魅力ある地域にするにはどうするかを課題として、希望的な明るい話をしていきたい。

私の住む町内の空き家を市外の方が購入したようである。私は町内会長の立場なので、一度町内会で顔見せ会をやって、何が好きでここへ来たのか聞いてみたいと思うし、また外から見た谷浜・桑取を勉強させてもらい、魅力を発信するための参考にしたいと思っている。

【笠原委員】

先ほど坪田会長から話が出たが、やはり学校の存続というのは、一番大事なことだと

思う。こういう市長の諮問を受ける地域協議会の場、町内会長の集まりでも、しっかり声を上げて、学校を何とか残して、移住者に来ていただくといった方向に進めればいいのではないかと思う。この会でどんな取組ができるかわからないが、とりあえず声を上げることが大事だと思う。

【京谷委員】

私は15年前にこちらに移住して、この地域の良さを感じている。恵まれた環境の中で子育てをして、子供もすごく喜んでいる。大きな財産になると思っている。

今日は移住のことや、学校のこととても話したいのだが、地域協議会委員になったということで、私と同世代ぐらいの方たち五、六人から、「これ何とかしてほしい」という意見があったので、この場に合った内容ではないかもしれないが、お伝えしたいと思う。

一番は谷浜・桑取区の選挙投票日の時間短縮についてである。投票の立会人を負担に感じている声があり、今後、この地域から立会人がいなくなる可能性があると思っている。そうすると、投票所が開設できない、選挙で投票ができなくなることが懸念される。

私はこちらに引っ越すまで選挙立会人は知らなかったが、こちらに住むとすごく身近なことである。町内で「女性で立会人をやってくれる人はいないか」とよく聞かれるが、みんなが立会人を嫌がる理由は三つある。

一つ目は、朝7時から夜8時までの長時間の拘束。特にこの地域は高齢者が多いので、座っているだけとはいえ体力的に厳しいし、また、40・50代はせっかくの休みが潰れ、公務員のように代休はなく、長時間の拘束は辛いと感じている。二つ目は3時以降に投票に来る人は少なく、ただ時間が過ぎることを待つしかないことは苦痛だということ。令和5年4月県議会議員選挙の高住投票所においては、3時以降は数えるほどの投票数で、5時の投票を最後に8時まで開設していた実績がある。三つめは、その割には報酬の金額が少ない。お金を払ってでも立会人をやりたくないという意見の人もいた。

そこで、選挙の投票時間を短くできるのか調べてみると、総務省が投票に支障がない範囲で、事情があれば終了時間を最長4時間まで繰り上げられることを認めていることが分かった。朝日新聞の記事によると、実際に投票時間を繰り上げた例として、茨城、栃木、群馬、島根が紹介されている。繰り上げを決めた自治体は、立会人の確保が難しいこと、夜は他の時間帯よりも投票率が低いこと、期日前投票で対応ができているといった意見を受け、投票時間を見直しているようだ。

ただ報酬の低さは問題で、この値段では若者は立会人を引き受けない。今後、立会人をする人がいなくなるのではないかと考えている。

上越市内でも期日前投票の割合が増えてきていること、他市町村の実態も踏まえて、できれば谷浜・桑取区でも投票時間の短縮を実験的にやってみてほしい。今後、人口と税収が減っていくのに、今までと同じようなやり方をしている上越市も立ち行かなくなるのではないかと考えて意見を言った。少し重たい意見で申し訳ない。

【佐藤和幸委員】

社会人になってからは転勤であまり地域のことを知らなかった。定年を迎えて、もう少し地域のことを知りたいと思い、今は上越市くわどり市民の森、たにはま公園の整備をやっている。少しでも地域の人達とよい関係を作り、いろいろ情報交換しながら、お互いのことを知り合えたらと思い取り組んでいる。

今年になって、小学校がPTAだけではやっていけないということで、応援隊を募集した。少しでも地域のためになりたい、できることがあればと思い応募した。今月、校庭の草刈りの依頼が来ているので、積極的に参加しようと思っている。地域のことをあまり知らないで、この地域協議会でもっと勉強して地域のことを知りたいと思い参加している。

【佐藤幸太郎委員】

3点お話しする。

一つは、先日、NHKの番組で「人口急減の時代。これからの地方は」というテーマで、とってもいい討論会があった。こういった番組を見ながら、谷浜・桑取区に置き換えて、地域協議会で議論をしていくこともいいかもしれないと思っている。

二つ目は、昨日、谷浜地区の70代の女性から相談を受けた。何年前に夫が亡くなり、子供さんと一緒に生活している。自分では運転ができないので、一番の悩みは、買い物・病院に行くことが大変で、谷浜地区から町へ脱出したい、より町場へ引っ越したいということだった。この地に住み続けたくても、生活面で引越しをせざるを得ないと考える高齢者は、やはりいるだろうと感じた。

三つ目は桑取谷の魅力を改めて学び、共有し、伝えていきたい思いがある。私は谷浜・桑取区の住民組織である、特定非営利活動法人かみえちご山里ファン倶楽部の活動に参加している。「結の里」という月刊誌を出していて、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれないが、2024年8月号の冒頭に有間川の方の談話が掲載されており、谷浜地区

を含む桑取谷の魅力が非常に格調高い文章で書かれている。これを読むと「桑取にいてよかった」と改めて思うことができた。ここに書かれているようなことを、私たちが、もっと学んで伝えていきたいことだと感じた。皆さんも機会があれば、ご覧になっていただきたい。

【白滝委員】

私からは1点。過疎化がすごく心配である。50年前を皆さん思い返してほしい。谷浜、長浜の海水浴場は、年間50万人ぐらいの来場があって、すごくにぎわっていた。私は3年前に谷浜に戻ってきたところ、非常に惨憺たるもので、浜茶屋も4軒くらいで、ほとんど来場者もないという状況である。50年間でこのように減っており、多分あと20年したらなくなる可能性があると思っている。本当に危機だと思っている、何とかしたい。

どうするかという話だが、前回の京谷委員のお話がすごく参考になった。移住先を探している方が、谷浜・桑取区を見つけやすいようにしてあげるとするのが第一ではないか。これは、市の方針や政策等にも関わってくるが、雇用や不動産の情報発信をきちんとして、探したい方にわかりやすく、的確にアプローチできるツールというか、そういう仕組みを作らないと、変わっていかないと思う。過疎化をすごく心配しているので、できれば皆さんと共有して、考えていきたいと思っている。

【田村委員】

県道269号土口谷浜停車場線は桑取谷に沿った道で、有間川の信号機から高速道路の下の地域は桑取谷の入り口にあたる。この道路はこれまでは稲作のために手入れされ、地主の責任で管理できていたが、稲作をやめた今、草も伸び放題で見通しも悪く管理に苦労している。今のままでは恥ずかしい。桑取谷の入り口だけでもきれいに管理したい。

京谷委員、あの辺りが宅地になったらいいと思わないか。

【京谷委員】

田畑、景観が良く、移住先を探していた際に何回か問い合わせをしたことがある。しかし、宅地造成等規制法や農業振興地域の整備に関する法律の規制で宅地としては利用できないようだ。ここの景観が良いから住みたいと思う人はいると思う。

【中原委員】

私はここで生まれ育って外へ出たことがないので、あまり自分の地域がすばらしいという実感が湧かない。ただ、皆さんが言われるように、だんだんと高齢化してきて若い

人がいなくなり、私どものところも、小学生は0人、保育園が2人、中学生が1人、そんな状態で、昔50軒あった集落が今22軒しかない。非常に軒数も減ってきているし、私も何とかしたいと思っている。

今取り組んでいるのは、私から進んで平日にお年寄りのいるところへ「お茶飲みに来たよ」と寄せてもらって、お手伝いをさせてもらったりしている。昔は、皆さん近所づき合いでお茶飲みをしていたが、そういうことも少なくなってきた。これは、一人でやるには限界があるので、もっと協力してくれる人を増やしたい。

もう一つは、各町内で連携して花木を植え、県道・桑取谷を明るくする夢をもっている。田村委員の話にもあったが、有間川から桑取まで行く県道は田畑がなくなっていて、雑木と藪が生い茂り、イノシシが騒いでいる。それを整備するのはなかなか大変だと実感している。そのような中でも、令和2年に私の町内で稲作をやめた場所をお借りして、花桃の苗を60本植えた。植えた後の草刈りの管理も大変ではあるが、花があることで手入れする気持ちになるし、車で走っているときに花を楽しんでもらえることは励みになる。このようなことを桑取谷の町内で連携したいと思っている。

【番場委員】

私は、町内でも端のほうに住んでおり、この年になるといろいろな団体とのつながりもほぼ切れてしまい、近所の人としか話ができないので、皆様のいろんな意見は吸い上げられていない。

多分どこも一緒だと思うが、コロナで町内の行事がすべて中止になった。それが今、やっと少し始まりかけている。規模が縮小されたこともあり、集まる人が少ない。この3年、4年の間で、子供も大きくなれば行事には参加しなくなってくるし、お年寄りも高齢になって、足腰が弱くてそんなところまで行けないという方もいらっしゃる。どうしたらこの地域の行事を残していけるのか考えていきたいと思っている。

【坪田会長】

皆さんから意見をいただいて、それぞれが重大な部分だと思っている。これをみんなです話し合いながら、自主的審議事項に結びつけていく。

意見、質問等はあるか。

【白滝委員】

先ほど京谷委員から出た、選挙投票時間の短縮というのは、この地域協議会で提案できることなのか。

【佐藤所長】

選挙制度の内容も含め、まずは担当部署にあたりたい。

【佐藤幸太郎委員】

今のお話しは、地域協議会で話す内容としては難しいのではないかと。私も立会人をやっているのですが、ご苦勞のほどはわかる。しかし、民主主義の観点から投票率の向上策等が行われており、投票時間を短くするといったことで解決できる問題だけではないと思う。

【坪田会長】

選挙の投票についてはいろいろと方法論はあろうかと思う。地域協議会委員から意見が出たことは事実なので、選挙管理委員会に話を聞くなどの場を設けることは考えられる。多種多様な意見があり、意見が出ていることは良いことだと思う。

皆さんの意見を一つ一つ聞きながら、より良い方向に進められればと思っている。今後、それを総合した中で、自主的審議事項の進め方を検討していきたい。一層のご意見等々を賜りながら進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。

ほかに意見を求めるがなし。

その他、事務局、何かあるか。

【丸山主任】

8月1日に、上越市の主催で会長及び副会長を対象とした「地域協議会ファシリテーション研修」が行われ、坪田会長と横田副会長からご出席いただいた。研修は、会議を円滑に進める技術の習得を目的として開催したもので、研修後には、正副会長意見交換会等も行われた。こちらについて、坪田会長から委員の皆様へ研修等の内容を、簡単にお話していただきたい。会長が資料を作ってくさっている。

【坪田会長】

・ファシリテーション研修について説明

ファシリテーターの役割とは、皆さんが会議等をしたときに、その議事や会議を円滑に進めることである。会議をうまく円滑に進めるにはどうしたらいいかというと、簡単にまとめると、ネガティブな部分をポジティブに変えながら話をするということである。お互いを中傷、誹謗しない、柔軟性をもってお互いの意見を理解しつつ、いい話をするということである。

補足説明を、横田副会長からお願ひしたい。

【横田副会長】

坪田会長から報告があったように、ポジティブな意識を持つだけで敵対関係にならずに議論を深めていけるということを今回勉強させてもらった。

【坪田会長】

その他、事務局何かあるか。

【丸山主任】

・次回協議会：9月中

会長と協議の上決定。日程が決まり次第、開催案内を送付する。

アンケートは、8月20日までに、中に入っている返信用封筒でお願いしたい。

【坪田会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。